

“来てもらう”から “出かける”へ

日野町商工会

『御用きき号』

【日野町御用聞きサービス
実証実験事業出発式】



左から、山口副町長、勝瀬会長、加藤さん、あいきよう黒坂店前田店長、安達代表取締役、日野振興センター澤田所長

明るく親しみやすいオレンジ色の『御用きき号』

8月18日、日野町商工会（勝瀬節雄会長）が、移動販売業者「安達商事」（安達享司代表取締役）の移動販売車に同行し、移動販売以外の品目の注文などの「御用聞き」を行う、「日野町御用聞きサービス実証実験事業」のスタートにあたり、あいきよう黒坂店の前で、「御用きき号」の出発式を行いました。

出発式に先立ち、町商工会の勝瀬会長は「この事業は、あいきようの取り扱う商品以外で、商工会の会員が対応できる商品やサービスをを使い、高齢者といったお客さまのニーズに対応し、新たな販路

開拓から新商品の開発までできたら」と話し、「これまでの『来てもらう』から『出かける』商売で活性化を図り、商工会の未来への一助にできたらうれしい。そして、地域の皆さんのためにこの事業が継続できるよう頑張っていきたい」と抱負を語りました。

また、安達代表取締役は「現在、移動販売車は、35集落、80カ所を回っているが、異業種との連携を図っていかねければ難しい。これからの中山間地域のモデルケースとして、良い形で、この御用聞きサービスとコラボレーションできたらうれしい」と現在

▼8月11日には、役場で調印式

御用聞きサービス実証実験事業の実施に先立ち、8月11日には、町役場で、「事業実施に関する覚書」の調印式が行われました。

調印式には、町商工会の勝瀬会長、安達商事の安達代表取締役のほか、立会人として、景山町長、澤田雅広日野振興センター所長が出席しました。

景山町長は「高齢者や地域の人たちに、大いに役立ってほしい。この実証実験の結果が素晴らしいことになることを願っている」と大きな期待を寄せていました。



「短期間の事業で終わるのではなく、継続していけるように」と調印式が行われました

■町内35集落をまわり、日々、ニーズの掘り起しや集約に取り組み

現在、「御用きき号」は、安達商事の移動販売車に同行し、町内35集落、80カ所を回っています。取り扱う商品・サービスは、日用雑貨、工具、家屋、車の修理など、あいきようが取り扱わない商品を対象とし、行く先々で注文に応じ、商品・サービスの手配や配達を行っています。

この日は、門谷、濁谷、野田を訪問。「ご用ききマン」として同行する加藤さんは、あいきようの移動販売の利用者に気軽に声をかけ、各集落での利用者の数や要望などをメモし、消費者のニーズの掘り起しや集約に取

り組んでいました。

8月18日の「御用きき号」スタートから、今までに、肥料や肌着、電球などの注文があったそう。安達商事の店員は「そういった専門的な商品は取り扱っておらず、助かっている」と話し、期待を寄せました。

利用者からは「普段一人で暮らしているので助かります」「ぜひ利用させてもらいます」といった声が聞かれ、加藤さんの今後の活躍、そしてご用聞きサービスの継続的・発展的な事業展開に期待が高まります。

地域の皆さんに気軽に声かけ



「お困りのことありますか?」と加藤さん



「少しでも皆さんの力になれるよう、頑張りたい」

宅配サービス事業推進員（町商工会臨時職員）

加藤 貴浩 さん
かとう たかひろ

この事業は町民の皆さんをできる限りサポートさせてもらう仕事です。とくに出かけることが困難な人や欲しい品物があっても店に出向くのが一苦労という人たちは大きな力になると思います。

この事業が始まってまだ1カ月も経っていませんが、移動販売の素晴らしさを感じています。それは、安達商事さんが地域住民の皆さんとともに楽しそうに話し、「お客さまに気持ちよく買い物をしてもらう姿勢を見たからです。「御用きき号」も地域住民の皆さんにとって、そのような存在になれるよう、少しずつでも信頼されるよう努力していきたいです。

私がこの御用聞きの仕事で1



番うれしかったことは、商品を配達した際にお客さんから「ありがとう」と感謝されたことでした。今までに配達させてもらった商品はまだ数えるほどしかありませんが、それだけでもお客さんから喜びと感謝の言葉を言ってもらえることで、今、喜びと確かなやりがいを感じています。

また、この御用聞きの仕事が始めたことで、地元への関心が強くなりました。これからは、日野町をあらためて学ばせてもらえる機会を作ってもらえることに感謝しながら、少しでも日野町の皆さん力になれるよう、「御用きき号」とともに頑張っていきます。